～ここで育てたいをシェアします～

なごのがっこ日和

Nago City-Elementary School Journal

2025 SUMMER

Vol. 1

東江小学校校長・地域CS委員に聞く、学校と地域の魅力。

名護市には風土や伝統、自然などを生かした教育を進める、魅力ある学校がたくさんあります。中でも、特色のある小学校の中から6校をピックアップして、各学校の魅力をお伝えしていくシリーズ企画。

今回は「名護市立東江小学校」をご紹介致します。同校の友利義明校長と、東江小学校 100 周年目の卒業生で現在、コミュニティスクール（CS）委員を務める福澤奈美さんに、同校や東江校区の取り組みや魅力についてインタビューしました。

子どもたちは地域でどのような学習や活動をしていますか？

友利校長：各学年でテーマが異なりますが、例えば4年生だと、幸地川をテーマに 1 年かけて学習します。生きもの観察だったり、環境汚染問題だったりと川を取り巻くことを学習していきます。毎年1月に開催される「名護さくら祭り」の時期には、環境保全や交通の注意喚起などの看板を作って設置したりと様々です。

東江小学校の特徴的な取り組みなどはありますか？

友利校長：「縦割り班活動」といって、6 年生をリーダーに 1 年生～ 5 年生までを混合したグループを作っています。6 年生 1人につき 1グループなので、60グループ以上あります。その活動では、グループごとに読み聞かせやグループ対抗の校内クイズラリーを行い、学校全体を使ったレクレーションを行っています。

活動のよさとしては、他の学年の子と関わることで年齢が異なる人とのコミュニケーション能力を育まれることや、高学年は下級生のお世話をする責任感が生まれてくるなどの力がつきます。子どもたちが主体となって活動しているので、僕たち教員は見守るだけです。

東江校区での取り組みで言うと、今年度、東江中学校の生徒をハワイへ派遣する事業を行っているとお聞きしました。

福澤さん：はい。「沖縄県民ハワイ移民125周年記念事業」の一環で、卒業生やPTAを中心に実行員会を立ち上げました。寄付金などご協力いただいた皆さんのおかげで、 8 人の東江中学校の生徒を派遣することが決まりました。

現地の活動や、「ハーリー大会」への参加やボランティア活動、現地の「沖縄県人会」の方と移民された方のお墓掃除などを予定しています。募集時には語学力は問いませんでした。言葉が通じなくても現地の方と交流したり生活する「生きる力」を身につけてほしいからです。また移民の歴史なども学んできてもらえたらと思います。

東江小学校の今後の展望についてお聞かせください。

福澤さん：CS委員として、もっと子どもたちと一緒に交流したり活動していきたいです。中学校では、隣の「**瀬喜田小学校**」の子どもたちと一緒になるので、交流学級のお手伝いができるよう、体制を整えている最中です。挨拶運動も継続して、これからも子どもたちが安心安全に学び過ごせる環境をつくる地域づくりをしていきたいです。

友利校長：改めて「**東江小学校のいいところってここだよね**」、と何世代にも渡って語り合える変わらない伝統をここから作り上げていきたいと考えています。

最後に、入学や転校をお考えのご家庭へのメッセージをお願いします。

福澤さん：東江校区は地域一体で、子どもたちにたくさん関わろうとする動きがあります。東江小に通う子どもたちならではの体験をたくさんしてもらいたいと私たちも活動しておりますので、地域や学校の見学に来てください。

友利校長：東江小くらいの規模だと、校内の遊ぶ場所や施設など、のびのびと使ってもらえると思います。校舎も建て替えしてから綺麗に維持されているので、学習するにはとても良い環境だと思っています。ぜひ一度、お越しください。

瀬喜田小学校

両手を広げ堂々としている栴檀（せんだん）のように伸びやかに地域と共に育む、環境に恵まれた小学校。

瀬喜田小児童が名桜大留学生と国際交流会。

名護市立瀬喜田小学校（名護市幸喜）の児童と名桜大学の留学生が7月1日、国際交流会を行った。
同取り組みは、異文化理解と語学への興味を育むことを目的に行うもので、名桜大学の交換留学生で中国やタイ、フィリピン、ブラジル、ペルーなど出身の留学生8人が同校を訪れ、3年生から6年生の児童約30人と交流した。

午前は6年生と、午後は5年生と3・4年生とのプログラムを実施。児童と留学生が母国語や好きなことについて紹介し合い、グループに分かれて対話するなど、英語や日本語を交えて活動を行った。留学生による出身国の文化紹介もあり、子どもたちは言葉の壁を超えたコミュニケーションを体験したほか、給食を一緒に食べるなどして親睦を深めた。

名桜大学地域連携担当の大城彩子さんは「これまで地域在住の外国人との交流は行ってきたが、名桜大学の留学生と瀬喜田小が連携するのは今回が初。座学ではなく実体験を通じた国際理解が重要」と話す。

参加したフィリピン出身のデッサ・メイ・アグパロさんは、「子どもたちは英語に苦戦していたが、美ら海水族館の話をしてくれて、ぜひ行ってみたいと思った」と笑顔を見せた。ペルー出身のセバスチャン・デルガド・アレバロさんは、「子どもたちはとてもフレンドリーだった。言った言葉をすぐに文字にしていて、とてもスマートな印象。自分の子ども時代を思い出し、貴重な体験になった」と話した。

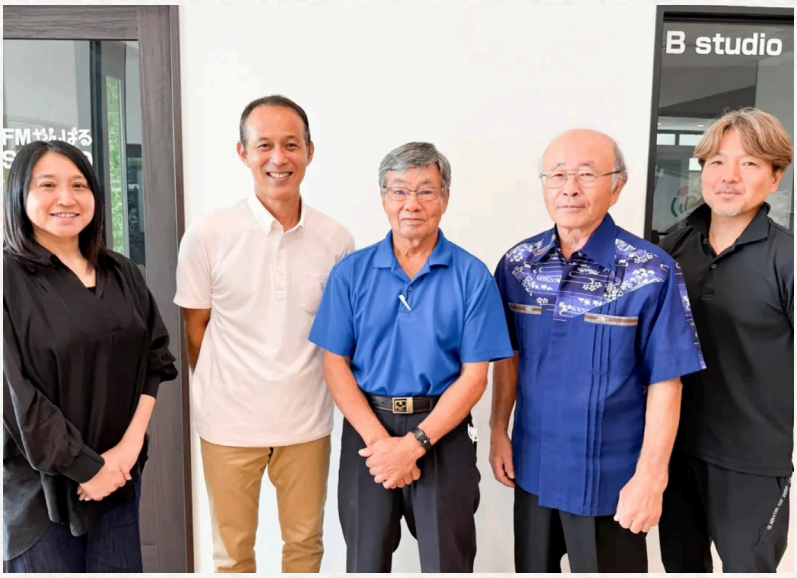
参加した6年生の安里笑奈さんは「たくさんの海外の方と話せて楽しかった。中国には花のお菓子があることも初めて知った」と話し、比嘉恭吾さんは「出身地や好きなことを話し合えてうれしかった。日本語で自己紹介をしてくれる方もいて、日本に興味を持ってもらえていると感じた」と話した。

瀬喜田小学校の比嘉豊校長は「学んできた英語が実際に使えることを体感し、伝え合う楽しさを知ってほしい。伝わらない悔しさもあると思うが、それも学びにつながる。異なる文化にふれることで、子どもたちには自分の地域や文化を再認識する機会にしてもらいたい。これからも、海外の方との交流に力を入れていきたい」と話した。

創立40年。市内では新しい小学校でありながら、地域コミュニティと深い絆を築き、地域との協働・支援が教育の根幹の学校。

大北小学校校長と学校運営協議会長、初代 PTA 会長に聞く学校自慢！

今回は「名護市立大北小学校」をご紹介致します。
同校の宮城昭彦校長、同校学校運営協議会の比嘉勝彦会長、初代ＰTA会長の稲嶺進さんに大北校区の取り組みや魅力についてインタビューしました。



まずは、大北小学校の紹介をお願いします。

宮城校長：大北小の歴史はまだ新しく、1985（昭和 60）年に人口増加にともなって、名護小学校から分離してできた小学校です。現在は 495 人の児童が在学しています。敷地内には大北幼稚園も併設されており、60 人の園児が在園しています。

大北小学校の「自慢」の特徴や魅力は何ですか？

宮城校長：私は今年4月に赴任してきたのですが、地域にとても支えられてる学校だと感じています。学校行事や体験活動など、保護者や地域住民の方の皆さんの協力が大きな力になっています。子どもたちも明るくて人懐っこく、元気いっぱいにパワーが溢れているところが自慢ですね。

稲嶺さん：大北小が建設されるとき、当時の校長が「**遊具を充実させたい**」と提案しました。今でも**ジャンボ滑り台**など 2 台が残っています。校舎周りの緑化は当時の保護者や地域住民で行ったものなのですが、それが今でも受け継がれ、週末には皆さんが樹木の手入れに来てくれるんです。地域の方の思いが詰まっている学校だと感じます。私は登下校中の交通安全の見守りを行っていますが、大北小の子どもたちは交通ルールを守れる良い子たちです。**地域の方の思いやりや子どもたちのはつらつとした姿が自慢です。**

地域とのつながりの強さを感じます。子どもたちは地域の方と一緒にどのような学習や活動をしていますか？

宮城校長：4 年生の総合学習で「ヒラヤーチー」作りをしたときは、区長や地域の方が手伝いにきてくれたり、書写の時間には習字を教えに来てくれた方もいました。ほかにも、幼稚園生と 2 年生が育てている芋畑も地域の畑をお借りし、収穫まで協力していただいてます。今年は校区内にある名護商工高等学校がプログラミング体験を開いてくれました。

比嘉さん：運動会のときには「大北青年会」がエイサーを指導しにきてくれますよね。
大北青年会は結成して 20 年以上になりますが、長くお付き合いをしてくれています。

大北小学校の特徴的な取り組みなどはありますか？

宮城校長：「**ひいだばるまつり**」というPTAの皆さんが主体でお祭りが、年に一回あります。子どもたちの体験活動の充実などを目的に開催しているのですが、地域との連携や親睦を深める目的もありますので、学校行事ではあるものの、地域の方にも多く参加していただいています。昨年の「**ひいだばるまつり**」では、幼稚園から 6 年生までの保護者が中心となって、縁日ゲームブースや、工作体験、軽食販売があったり、地域からはエイサー体験や焼き芋販売、北部電気工事業協同組合の「**高所作業車体験**」、消防署の「**消防体験**」だったりと、子どもたちに大人気の企画が盛りだくさんでした。

比嘉さん：「**ひいだばるまつり**」にも歴史があるんです。開校当時には「**大北子ども祭り**」という学校と地域が一緒に行うイベントがあったのですが、いつしか自然消滅してしまいました。1999（平成 11）年頃に、当時の PTA の皆さんや地域の方が集まって子どもたちのクラブ活動費などの予算醸成のためのリサイクルバザーを始めたのがきっかけで、もう一度**地域と学校が一緒に活動していこう**ということになり、2001（平成 13）年に「ひいだばる祭り」が始まったのです。ちなみに、「**ひいだばる**」は大北小周辺の地名「**比井田原**」が由縁なんですよ。

活発な大北小学校ですが、今後の展望を教えてください。

稲嶺さん：私は他校でも PTA の役員を経験したことがあるのですが、大北小は前述のように他地域とは違う特徴や歴史を持っています。まだ新しい学校という意味では、これからまだまだ成長し続けていく学校だと思っています。地域と子どもとの関わりを自慢できる地域なので、私自身も誇りを持って大北小と関わっていきたいですね。

最後に、入学や転校をお考えのご家庭へのメッセージをお願いします。

宮城校長：元気いっぱいの人懐っこい子どもたちが多く、いつも協力してくださる保護者や地域の方に恵まれていて、学校側としても本当に助かっています。これからも地域の方々と一緒に子どもたちが安心して安全に通えるように学校経営をしていきます。また私も大北区に住んでいるので、地域住民としても子どもたちとともに楽しく暮らしていきたいと思っています。お気軽に大北区と大北小学校をのぞきに来てください。

名護市教育委員会より

教育委員会では、学校全体で 31 学級以上の「過大規模校」と 1 学年 1 学級以下の「小規模校」の教育環境の整備に向けて「名護市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針」を令和 7 年 2 月に策定しました。**「なごのがっこ日和」**では、本基本方針に基づいた取組を推進する事業の一環として、各学校の特色ある教育活動や学校の魅力を発信していきます。

名護市立小規模小学校のご案内

【対象校：真喜屋小・稲田小・安和小・中山分校・瀬喜田小・久辺小】

小さな学校で大きく学ぶ

通常、それぞれの学校ごとに通学区域があり、住所によって就学すべき学校が指定されていますが、各学年の学級数が 1 クラス以下の学校（小中一貫校除く）へ通学を希望する場合、住所はそのままでも指定校変更の手続きを行うことで小規模校へ通学することが可能となります。

小さいながらも大きく学ぶことができる小学校で、のびのびと学んでみませんか？

発行元
株式会社FMやんばる 87.7MHz
☎0980-54-1515 ✉info@fmyanbaru.co.jp
やんばる経済新聞でも市内小学校の魅力を発信中
令和7年度　名護市立学校魅力PR支援事業

発行責任者　名護市教育委員会　学校教育課　☎0980-53-1212（内線380）